

## 秋の陣 その5

磐城高校吹奏楽部は、24日に岩手県で東北大会を戦います。東北大会を勝ち抜けば、名古屋での全国大会です。

吹奏楽部のこの2か月間は、特に3年生にとって、1秒1秒が全国大会での成功と進学のための学習とを並立させる日々となります。

弱音を吐くことは、自分が目指した本当の感動とその未来を勝ち取る戦いを後退させることになるので、朝早くから全員が一つの塊となり、その塊は青い魂となり、百本の矢を束ねたような大きなベクトルとなって、名古屋国際会議場へ向かっていくのです。

私は、明日の朝に車で福島に入り、12:00に盛岡につくよう新幹線に向かい、18:00過ぎの結果発表の後、新幹線で福島に戻り、いわきに車で戻ってくる予定です。

日曜日は、グリーンスタジアムで野球がありますが、陸上競技の地区大会に出て、表彰を行います。野球を見たい気持ちを抑えて、陸上競技を支えます。

土日は、3年生は全統記述模擬試験、1・2年生は、全統模擬試験です。

まだまだ、暑い日が続きますが、夢を夢で終わらせないために、決して焦らず慌てずあきらめず、明日を信じて進みましょう。

2016年の東京大学の国語の第一問に、内田樹の「反知性主義者たちの肖像」が出題されております。その趣旨は、知性なるものは、豊かな知識と豊富な情報にあるのではなく、他人の意見を尊重しその中に新しい発想や行動を促す力を見出していく力であるということです。

そして、「知性は個人においてではなく、集団として発動するものである」とも言います。「知性は集団的叡智として働くのでなければ何の意味もない」と言い切っています。

『知性は個人の属性ではなく、集団的にしか発動しない。だから、ある個人が知性的であるかどうかは、その人の個人が私的に所有する知識量や知能指数や演算能力によってでは考量できない。そうではなくて、その人がいることによって、その人の発言や振る舞いによって、彼の属する集団全体の知的パフォーマンスが、彼がいない場合よりも高まった場合に事後的にその人は「知性的」な人物だったと判定される。』

久しぶりに爽快な気分にした文章でした。

「知性は集団的叡智として働くのでなければ何の意味もない」肝に銘じます。

